



憂女!

おとこじゆく
ななしのいち

成人向

僕の名前は小泉充人！

基本スペック

38歳独身

職業・・・高校教師。

趣味PCゲーム(ギャルゲー)

彼女いない歴〃年齢

素人童貞・・・

見た目・・・自分では普通だと思っているが、まわりの反応は、デブ、メガネ、天パー・・・
将来の夢・・・教え子と結婚すること・・・

しかし僕にもようやく運がまわってきた

数年前からとある女子高に赴任すると

男性教師の少ない学校との理由で

学年生活指導まで任されるまでになった！

そして今年から担当する学年に

僕の好みにドストライクの美少女に

出会うこととなる。

まさにこれぞ我が運命！

その美少女が。。。。

この平〇憂ちゃんだ！

成績優秀！

姉思いの性格良し！

そしてなにより僕の校内美少女ランキング！

ダントツの一位！

まるで美少女ゲームの主人公！

非の打ちどころのない理想の美少女だ！



話は変わるが

この僕のパソコンヲタクのスキルと

教師である立場を使えば……

教室に盗撮用カメラを設置することも

造作もない！

さて今日の収穫は……

おおおおっ！

ばっちり映っている！

何度も試行錯誤して画角を調整したからな！

どれどれ……

おおっ！

ちょうど着替えのシーンだ！

これは午後の体育の授業前か！

さあ……。それでは早速……

今日も憂ちゃんをオカズに

セズリタイムだ！

ハアハア
ハアハア

小柄ながらむしろぶりつきたくなるような

オッパイ！

チ○ポをこすりつけたくなるような

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

シコ

ああ……。憂ちゃん……。！

相変わらず可愛いな……

着やせするのかな！？

シコ

シコ

プリっとしたお尻……

ハアハア
ハアハア



おおおおおおおっ!

「憂ちゃんのお尻パイパイ」

「憂ちゃんのお尻……」

「憂ちゃん……」

「憂ちゃん！」

「僕だけの憂ちゃんっっ！」

イクツッ!

もっとイクツッ!

シコ

おおおおおおおっ!

イクツッ!

イクツッ!

イクウウウウウウウウウウウッ!

ハアハア
ハアハア

シコ

ハアハア
ハアハア

シコ



あ……ああ……

いつちやっつた……

どろろ

どろろ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

クワッ

クワッ

失礼します！

「おおっ平沢さん、待ってたよ！」

先生何か御用ですか？

「あ。。。ああ・・・」

「用というほどではないんだが・・・」

「ああ。。。そうそう・・・」

「君のお姉さん大学に合格したそうじゃないか！」

「けいおん部のみんなと同じ第一志望に！」

そうなんですよ！

ありがとうございます！

お姉ちゃんもとっても喜んでいて！

私も嬉しいです！

「それはよかった！」

「それはそうと平沢さん・・・」

「ある人物からこんな動画が送られてきたんだが！」

「え。。。」

動画ですか？

「ウムッ！」

「これがその動画なんだが・・・」

な・・・何ですコレ!?

「先生も信じたくないんだが・・・」

「この性行為をしている娘なんだが・・・」

「君にそっくりなんだ！」

「どうなんだ!？」

「私じゃありません！」

「ち・・・違います！」

「絶対に私じゃありません！」

もちろんこれはフェイク動画だ！

そうこれは僕がAI技術を使って
巷に配信しているエロ動画に
教師の立場を使い憂ちゃんの顔の素材を
手に入ればめ込んで作ったものだ・・・
作った僕も驚きだが、
最近の技術でデジタル処理したら
まるで憂ちゃんの本人のセックスシーンが
できあがった・・・

「そうか・・・先生はその言葉信じよう！」

「だが・・・！」

「キミのお姉さん・・・進学決まっていたんだよね！」

「もしこれが本当だったら・・・」

「お姉さんの進学に影響がでるかもしれない！」

「大丈夫！」

「このことを知っているのはまだ僕だけだから！」

このままじゃお姉ちゃんに・・・
迷惑がかかっちゃう！

先生どうすれば・・・
助けてください！

「わかったなんとかしよう！」

セックスだなんて・・・!

「それでは君はまだ処女なんだな!？」

「こんなことはしたくなかったんだが・・・」

「僕が直接君が処女かどうかが確認する」

「服を脱いで裸になりたまえ!」

「今ここでですか!？」

「どうだ君の身の潔白を証明するためだ!」

「どうする平沢さん!？」

「身の潔白が証明されない限り・・・」

「この動画を教育委員会に提出しなければならぬ!」

「僕は教師だからね!」

「一人の生徒だけひいきするわけにはいかないんだ!」

「そうなるとお姉さんは困るよね・・・」

「うん・・・」

お姉ちゃんに迷惑は
かけられない・・・

これでいいですか!？」

「ハアハア
ハアハア」

「うん・・・いいだろう!」

「それでは検査をはじめろぞ!」

「君は素直でいい娘だ!」

「僕も本当はこんなことしたくないんだ!」

「ひっ!」

「わかるだる君の潔白を証明するためなんだ!」

「ハアハア
ハアハア」

「どうしてるんだよ!」

「うん・・・」

「ハアハア
ハアハア」

「うん・・・いいだろう!」

「それでは検査をはじめろぞ!」

「あああああっ!」

「君の身体隅々まで調べ上げてあげるよ!」

「な・・・何するんですか!」

「ハアハア
ハアハア」

「ハアハア
ハアハア」

「ハアハア
ハアハア」

い・い・やっ!

こんなのセクハラです!

「セクハラ?」

「何言ってるんだい」

「これはれっきとした検査なんだよ」

「んー」

「乳首が堅くなるのかな」

「もしもし平沢さん」

「この検査は平沢さんじゃなきゃならぬわ」

「そんなこと」

「ふしたらな娘だ」

「いんな」

「君みたいな娘が」

「これは不純異性行為の疑いがあるな」

不純異性行為だなんて・・・!

「生娘とは思えない感度の良さだな」

「これで男どもをたぶらかしてるんじゃないのか?」

「せめてくまなく検査する必要がありそっだな」

「さあ最終チェックはここだ」

「そっ君の一番大事なところ」

「オマ〇」だ!

「これも君と君のお姉さんのためなんだよ」

「お姉さんを不幸にはできなからう」

「指で払って膣内を確認する必要があるな」

「んんんん」

「おおおおお・・・よく見えるぞ」

「これが平沢さんのオマ〇か」

「そんなところ」

「おおおおっ」

「濡れてる」

「濡れてるぞおおっ」

「オマ〇が愛液でグチヨグチヨだ」

「見ないでください」

「見られて感じているのかな!」

「ますます怪しくなってきたぞ」

「んん平沢さんあまりにも濡れすぎてらして」

「膣内までよく確認できなからう」

『本当はやりたくなかったんだが。』

『これは最後の手段をとるしかないな!』

最後の手段……!?

な……何をやるんですか!?

ズン

『何をやるんですか!?!』

『男と女が裸で……!』

『賢くおぼろげな目つきで……!』

ひっ……まさか……!

『そのままで……!』

『平沢さん……君が処女かどうか……!』

『セックスをするんだよ!』

『これが一番わかりやすい方法なんだよ!』

セ……セックス……!?!

『さあ挿入れるよ……平沢さん!』

いやっ!

やめてくださいっ!

いやですっ!

ああ……っ!

私処女です!

本当に処女です!

不純異性行為なんてしてません!

信じてください!

お願いしますっ!

『そんなこと言っているのかい!?!』

『君のせいでお姉さんの進学がパーになるぞ!』

ズン

ズン

『君には選択肢はないんだよ!』

そんな……!

ズッ
ズッ

「おらあああああああつっ！」

「一気に挿入れてやるっっ！」

いやっ！

あああああつっ！

いやっっ！

いやあああああつっ！

「おおおっ挿入った。」

ズッ

「僕の手○ポが根元までズッポリと……」

「ん！？多少の出血があるな……！」

「おおっっやっぱり処女だったか！」

「よかったな平沢さん！」

「これで君の潔白が証明されたぞ！」

ズッ

ズッ

いやあああああつっ！

ズッ

「これで僕のモノだ！」

「ああああつっ！」

「抜いてください！」

「憂ちゃんの処女が僕のモノに！」

「お願いします！」

「これで憂ちゃんは僕のモノだ！」

「抜いてくださいっっ！」

「僕だけの憂ちゃん！」

「僕だけの憂ちゃん！」

Rec

先生でいうことなんですか!?

も・もしかして・
騙したんですか!?

「今頃気づいたのかい!」

「そうさ!あの動画も僕が作った物さ!」

「全部狂言だったのさ!」

「君を僕のモノにするためのね!」

「因みに・・・」

「この様子は定点カメラで録画中だから!」

「他言したらどうなるか・・・」

「賢い君ならわかるよね!?!」

しゃっ!

おううん!

しゃっ!

15.

ズツ

ハアハア
ハアハア

「さあ憂ちゃん一緒に愛し合おうっ!」

ズツ

ああ・・・ああっ!

「あああああ憂ちゃん!」

「憂ちゃんツ!」

「憂ちゃんツ!」

いやあああああああっ!

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ズツ

「憂ちゃんは僕のモノだあああああああつっ！」

ああ・・・ああつっ！

「おおおおおおおつっ！」

「これが夢にまで見た憂ちゃんとのセックス！」

『オラッッ！』

うやっっー

うやっっー

『オラッッ！』

「これが憂ちゃんのオマ○」

「憂ちゃんの処女マ○」

「憂ちゃんとセックス！」

「セックス！」

「ああっ気持ちいっー」

「気持ちいっー」

「憂ちゃんの処女マ○」

「最高に気持ちいっー」

「最高に気持ちいっー」

いやあああああああつっ！

もう許してください！

「気持ちいいんだね僕とのセックスが！」

「それじゃ・・・」

「今度は下から突きあげてあげるよ！」

「もっともっと犯してあげるよ！」

「いくよ！憂ちゃん！」

「痛いです！」

「どっただい憂ちゃん！」

「下から突きあげられるセックスは！」

「いやなんです！」

『膣肉の奥まで突き入れて』

「抜いてください！」

『僕のチ○ポが子宮奥まで突っ込んで』

本当にいやなんです！

「お願いしますっつ！」

「んん？！まったく強情な口だ・・・」

「んっちも塞がなくてまっしかないな！」

「んっつ！」

「んっつ！」

「んっつ！」

「んっつ！」

（キスだってしたことなかったのに！）

（ファーストキスなのに・・・）

「んっつ！」

「んっつ！」

（私の大切なファーストキスなのに！）

「んっつ！」

「あああああつ」

ああ・・・ああつっ！

「ああああ僕だけの憂ちゃん！」

ハアハア
ハアハア

「憂ちゃんの唇奪ってやった！」

いやっ！

ハアハア
ハアハア

「これで憂ちゃんのすべては僕のモノだ！」

ああああああつ！

「もしかしてファーストキス！？」

ハアハア
ハアハア

「キスも初めてだったの！？」

いやっっ！

「ああああ憂ちゃん！」

ハアハア
ハアハア

「僕だけの憂ちゃん！」

いやっ！

「好きだよ憂ちゃんっ！」

「初めてのキスだったんだね！」

「憂ちゃんっっ！」

いやあああああああつ！

ハアハア
ハアハア

「憂ちゃんの初めてはすべて奪ってやった！」

ハアハア
ハアハア

『うおおおおおおおつ！』

「イクツツ！」

「イクツツ！」

「いやっ！」

「あつっ！」

「いやっ！」

「^だ射精すよ！」

「^だ射精すよおおおつ！」

「あああああつ！」

『うおおおおおおおつ』

ドドド
ドドド

ドドド
ドドド

ドドド
ドドド

「ああ……あつっ！」

「いやあああああつ！」

「イクウウウウウウウツ！」

「ああああ。。。。いっちゃったよ。。。」

ああ。。。

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「憂ちゃんの膣内でいっちゃったよ。。。」

そ。。そんな。。!

ハアハア
ハアハア

ふ。。ふ。。

ハアハア
ハアハア

「うっばい射精たよ!」

ああああああ。。。。

「うっばい射精たよ。。憂ちゃん!」

ハアハア
ハアハア

「うっただら憂ちゃん。。僕との初体験は!?!」

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

「憂ちゃん膣内に収まりきらなくらい。。。」

ぐんぐん

「どうしても気持ちよかったらうっ。。。」

ハアハア
ハアハア

「ああああ僕だけの憂ちゃん!」

ハアハア
ハアハア

「僕だけの憂ちゃん!」

う。。う。。

う。。う。。

う。。う。。

「僕だけの憂ちゃん!」

ハアハア
ハアハア

う。。う。。

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

春になり、

お姉ちゃんは無事大学へ

進学することができました。

私は三年生になります。

そして弱みを握られ

逆うつつこのできない私は・・・

「あぁぁぁっ憂ちゃんのパイズー」

「あぁぁぁっ憂ちゃんのパイズー」

うっ・・・

「おおおっいいねっ」

「身体は華奢なのに・・・」

「オッパイは豊満だよね」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「憂ちゃんのやわらかいオッパイが」

「あぁ・・・っ」

「僕の手を包みこんでっ」

「憂ちゃん上手くなったね！」

「パイズりも上手くなったね！」

「あぁっっ気持ちいいっ」

「気持ちいいっ」

「憂ちゃんのパイズり気持ちいいっ」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

『せ……せういっちゃんそつたよー』

『最後はその小さなお口を搾りしつてくれるからー』

んんっっ！

んっ！

んっ！

『おめめくは憂ちゃんしつかり奉仕しておくれー』

『フェラチオだー』

『おおおおおおおっー』

『もっと奥まで挿入していらー』

『もっと根本まで啜らなきゃー』

んぐっっ！

ゴクッ

んぐっ！

『僕の手○ポを根元まで啜らせてくれるー』

『うおおおおおおおっー』

『ああああ憂ちゃん小さな口が僕の手○ポを……』

『おお……おおおおおおおっー』

『憂ちゃんの……フェラチオ！』

んぐっっ！

シメッ

んぐっ！

『気持ちいいっー』

んぐっ！

『気持ちいいっー』

『気持ちいいっー』

んぐっ！

『超気持ちいいっー』

「めめ・憂ちゃんのフェラが気持ちよすぎて。。。」

「も。。もう。。いつちゃったよ!」

「一滴残らず精液を吸い尽くすんだよ!」

「さあわかつているよね!」

「さあ憂ちゃん。。。」

「次はどうするんだっけ!」

「ぐくっ!」

「僕の大事な子種汁だ!」

「一滴残らず飲み込んだよ!」

「そっ。。いい娘だ!」

「目をあけて見せてみて!」

「おおおっ!一滴残らず飲み込んだようだね!」

「ああ。。ああああ。。。」

「どうだ!?美味しかったかい僕の精液は!?!」

「美味しかっただろう!」

「あ。。ああ。。。」

「ほら腰を振るんだ！」

「しっかり腰をふるんだ！」

「いいぞ憂ちゃん！」

ああ・・・っ

「気持ちいいかい？」

「セックスは気持ちいいかい？」

ハアハア
ハアハア

「そっそもっともっただ！」

「その調子だっ！」

「自ら腰を振るセックスは気持ちいいからっ！」

あっ！

ああっ！

ああっ！

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「せつと淫らだっ！」

「自ら求めるセックスは！」

「どうだ気持ちいいだろううううっ！」

ハアハア
ハアハア

「腰を振るんだ！」

ああんっ！

「そっそもっともっただっ！」

「そっただ憂ちゃん！」

ハアハア
ハアハア

ああんっ！

「自らの意思で僕とセックスするんだああんっ！」

「僕とのセックスは気持ちいいだろううううっ！」

なかだし
（膣内射精なんて絶対にイヤッ！）

ハアハア
ハアハア

なかだ
（これ以上膣内で射精されちゃったら・・・）

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

で
（妊娠きちゃうかもしれない・・・）

（でも断ったりしたら・・・）

（この痴態をばらされたりしたら・・・）

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

だ
射精してください・・・！！

「ん！・・・なんだって!?!」

「声が小さくて聞こえないよー!」

『もつと大きな声で心をこめて言ってくれないかな!』

くううう・・・

だ
射精してくださいっ!

なか
私の膣内に射精して・・・ください!

なか
先生の精液を私の膣内に・・・!

なか
ありったけの精液を私の膣内に射精してくださいっ!

「いいんだね憂ちゃん!」

ああ・・・っ!

だ
『望みどおりこのまま射精すよー!』

あああああああっ!

なか
『憂ちゃんの膣内で射精しちゃってるよー!』

ハアハア
ハアハア

「ああ……あああ……」

「いっちゃった！」

ああ……あ……

あ……ああ……

「いっちゃった！」

「いっちゃったよ……」

「憂ちゃんの膣^な内^かでいっちゃったよー！」

う……いや……

「ほくら見てごらん！」

「いっぱい射精^でたよー！」

「収まりきらない精液が……」

「逆流して溢れ出てるのー！」

「どうだい憂ちゃん！？」

「膣^な内^かで射精^だしてもらった気分は！？」

(ダメツツ……)

(い……言えない！)

はい……嬉しいです……

(い……いやだなんて言えない！)

(もし先生とのこんな関係……)

「気持ちいいー」

「僕も気持ちいいおおおっー」

うっっ！

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

じゃっ！

じゃっ！

「うおおおおおっー」

「またイっちやうよっ！」

ハアハア
ハアハア

イクツツ！

イクツツ！

あっ！

あっ！

「あああああっイクツツ！」

じゃっ！

あああじゃっ！

「うおおおおおっー」

「またイっちやうよっー」

だめっ！

だめっ！

ああああああっ！

「ああああああっイクツツ！」

イクツツ！

だめええええええええええええええええっ！

「またイクウウウウウウウウウウツツ！」

イクツツ！

イクツツ！

イクツツ！

「ああああ……とっってもよかったよ。」

『今日の憂ちゃんとのセックス！』

「うう……また膈内で……」

『たくさん射精しちゃったからね！』

「さ……さ……」

『きつと子宮は僕の精液でいっぱいなんだ！』

『おっ……憂ちゃんのオマ○が……』

「僕の精液が逆流している！」

『憂ちゃん……さっさと……』

『さっさと膈内射精してもいいよね……』

「だって憂ちゃんは僕だけのモノなんだもん！」

『おっ……』

『もし妊娠しちゃっても大丈夫！』

「うう……」

「僕が責任をとるから！」

「う……う……」

『さっさと結婚しよう……』

『毎日バラ色の生活がはじまるよ……』

あれから一年が経ち。。。

私は無事〇校を卒業することができました。

お姉ちゃんと同じ大学に進学することが

私の目標でしたが。。。

それは叶わぬ結果となりました。

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「憂ちゃん卒業おめでとうー!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「もう僕達の間を阻む物は何も無いよ!」

「なんて幸せな日々なんだ!」

「思っ存分抱き合おう!」

「思っ存分愛し合おう!」

「それに憂ちゃん。。。」

(助けて。。)

ハアハア
ハアハア

「また楽しみが増えるね。。。」

ハアハア
ハアハア

「ずいぶん大きくなったね!」

ハアハア
ハアハア

「憂ちゃんのお腹!」

「来月には生まれるかな。。。」

ハアハア
ハアハア

うっっ!

(助けて。。お姉ちゃん。。)

ハアハア
ハアハア

「僕達の愛の結晶だ!」

ハアハア
ハアハア

「だまんないよ!憂ちゃん!」

ハアハア
ハアハア

「赤ちゃんを孕んだ君も魅力的だよ!」

ハアハア
ハアハア

『ほっら憂ちゃん!』

『まだまだお楽しみは終わらないよ!』

(5・5やっっ!)

ハアハア
ハアハア

(やめてっ!)

『まだまだいっぱい射精してあげるからね!』

ハアハア
ハアハア

(も・・・もうやめてっ!)

『今夜も精液が尽きるまで!』

だ
『射精しつづけてあげるからね』

(やめてっ!)

ハアハア
ハアハア

ズッ

『おおっ・・・!』

(許してっ!)

『たまんないよ!憂ちゃん!』

ハアハア
ハアハア

『おおおおっ!』

だ
『また射精ちやいそうだ・・・!』

(許してっ!)

だ
『射精すよ!憂ちゃん!』

だ
『今夜も射精してあげるよ!』

(もう許してええええええええっ!)

だ
『さっほら射精してあげるよ!』

だ
『射精すよっ!』

だ
『何度も射精すよっ!』

ハアハア
ハアハア

だ
『射精すよっ!』

だ
『射精すよおおおおおおっ!』

ハアハア
ハアハア

ズッ

「おおおおおっ！」

「またイッちゃうよっ！」

「イクツツ！」

(汚さないで！)

「あああああッイクツツ！」

(いやあぁっ！)

ハアハア
ハアハア

(汚さないでっ！)

「イクツツ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「イクツツ！」

ハアハア
ハアハア

「イクツツ！」

(汚さないでえええええええっ！)

「またイクウウウウウウウウウウウウウウウウウツツ！」

「イクツツ！」

イクツツ

「イクウウウウウウウウウツ！」

(いゃっっ！)

(射精さないでっ！)

『うおおおおおおおおおおおっ！』

ドドド

「射精るっ！」

(射精さないでっ！)

「まだ射精るっ！」

(膣内で射精さないでっ！)

「まだ射精るっ！」

(もう射精さないでっ！)

「射精がとらまらないうらららららっ！」

クワッ

ハアハア
ハアハア

「射精たよっ！」

(これ以上・射精さないで・)

「また射精たよっ！」

ハアハア
ハアハア

「射精たよおっ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「あああああ僕だけの憂ちゃん！」

ハアハア
ハアハア

びび

ハアハア
ハアハア

「僕だけの憂ちゃん……」

ど

ド

びび



(これ以上・・・私を汚さないで・・・！)

(もう許して・・・)

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

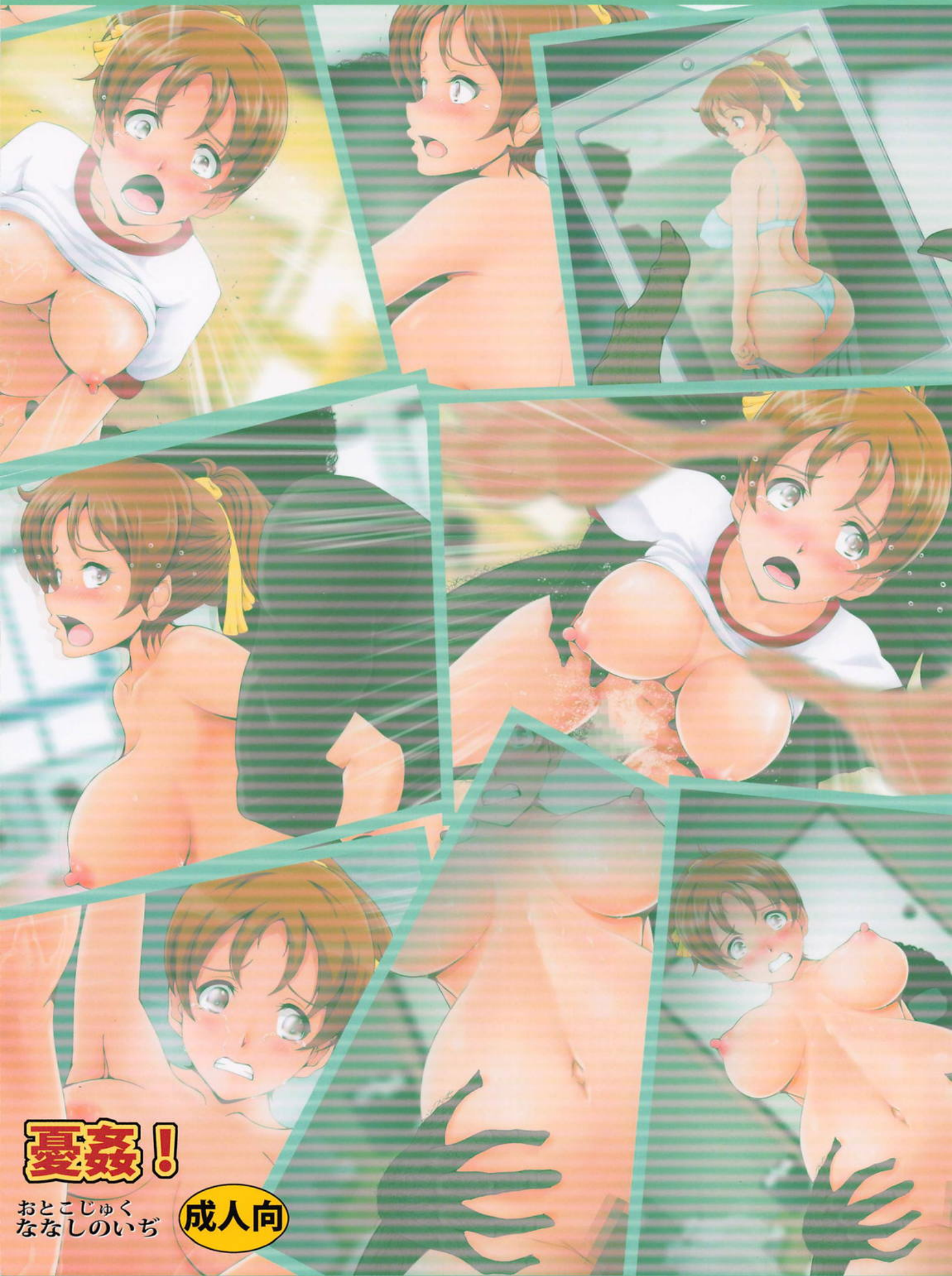
ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

奥付
「憂姦！」

発行日 2021年7月22日
発行 おとこじゅく
発行者 ななしのいち
印刷 大陽出版株式会社様
連絡先 bunotumikokia@yahoo.co.jp
18歳未満に方の購入を禁じます



憂姦!

おとこじゅく
ななしのいち

成人向